



碧南ロータリークラブ週報

第2896回例会 平成31年1月23日(水)

- 会長 鈴木 健三
- 幹事 角谷 修
- 会場監督(SAA) 栗津 康之

2018-2019 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内
TEL<0566>41-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 例会場 碧南商工会議所ホール
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
FAX<0566>48-1100



インスピレーションになるう

- 会報委員 岡本彰人・鈴木きよみ・小笠原良治・新美真司

● 斉 唱

ロータリーソング「我等の生業」

● 本日のお弁当

小伴天

● 本日のお客様

宮内庁式部職 鶴匠 山下哲司様 (岐阜RC)

● 本日の卓上花

デルフィニウム

会 長 挨拶

皆さん、こんにちは。先週末辺りから一段と寒くなって参りました。インフルエンザも益々勢いを増しているようですので、皆さんもお体には十分にお気をつけください。

さて、色々な新年会や各業界との交礼会などもぼつぼつ終わりを告げる時期になりましたが、皆さん今年もたくさんの新年会に出席されたと思います。私も先日、本日の講師に関係の深い長良川沿いにあるステーキ屋さんでワイン好きの集まる新年会をしてきたんですが、この時の幹事さんは、年中宴会は長良川温泉内で開催してくれるのですが、泊まる場所は長良川沿いでなく、我々三河から参加の交通の便を考えて JR 岐阜駅からごく近いホテルで部屋を取ってくれます。とてもありがたいことなのですが、いつも物足りなさを感じておりました。私は長良川温泉といえば、鶺鴒、花火、マッサージ、柳ヶ瀬に行ったら最後はベトコンラーメンの時代の人間ですので、男ばかりの団体で泊まる場所が岐阜駅周辺のホテルというのは、毎回、楽しさと物足りなさを感じ、しかも名物のベトコンラーメンもここ数年でなくなってしまった今では、ここ数年の



鈴木健三会長

天候の不順もありましたが、団体で長良川の鵜飼をのんびり見物して船から花火を大人買いする機会もめっきり減ってしまいました。皆さんはどうなんでしょうか。

本日は長良川の鵜飼の話聞く貴重な機会をいただきましたので、今年の夏は幹事に交渉して、今までとは違う観点からの鵜飼見物を体験してみようかなと考えております。本日の卓話大変楽しみにしております。そして、本日の例会もよろしくお願い致します。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 第7回理事会報告につきましては、幹事報告書の通りでございます。
- ・ 例会変更のお知らせは、今週はございません。
- ・ ロータリー囲碁同好会より韓国・大邱市での「第20回 RI 囲碁大会」開催のお知らせが届いております。
- ・ 本日の例会終了後に第13回の60周年記念正副委員長会議を開催致しますので、関係各位の方はよろしくお願い致します。
- ・ 次週の1月30日(水)の例会は職場例会になります。場所はあおいパークになりますので、よろしくお願い致します。



角谷 修幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励委員会>

| | |
|--|---------------|
| 総会員数 67名 (内出席免除者 18名の内出席者 12名) 出席者 49名 | |
| 出席対象者 49/61名 | 出席率 80.33% |
| 欠席者 18名(病欠者 0名) | 前々回修正出席率 100% |

※十週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

<ニコボックス委員会>

岡本 明弘君 長田和徳さんに工場の動画撮影で大変お世話になりました。ドローンの操作は「半端ないって!」でした。

杉浦 秀延君 本日卓話講師、宮内庁式部職 鵜匠 山下哲司様をご紹介します。

卓 話

「長良川の鵜飼」

宮内庁式部職 鵜匠 山下哲司様



山下哲司様

皆様、こんにちは。只今ご紹介いただきました岐阜 RC の山

下と申します。本日は長良川の鵜飼についてお話しさせていただきます。よろしくお願ひ致します。

鵜飼は鵜を使って魚をとる漁法です。日本各所において、ある程度操業されていたことは古文献で明らかです。しかし、長い経過の間に漸次消滅していきました。古い歴史を秘めつつ、その伝統を守り続けて今日に及んでいるのは、唯一岐阜長良川の鵜飼のみです。

美濃国において最も古い文献として、大宝2年（西暦702年）の戸籍に鵜飼部が出てきます。長良川を中心に木曾川、揖斐川と三大河川が近くに位置し、支派川もたくさんあり、魚の豊富な漁場で地理的に恵まれていました。それに加えて、時代時代の権力者による保護を受けることにより、今日まで守り続けることができました。斎藤道三しかり、その斎藤氏を滅ぼし美濃を支配下に入れた織田信長もそうでした。元和元年（西暦1615年）に徳川家康が大坂夏の陣凱旋の途中、岐阜に逗留し、鵜飼を観賞。とれた鮎を供し、鮎鮓を献じたところ大いに賞されました。ここに美濃の鵜飼は幕府直属の鵜飼として手厚い保護を受け、その後、尾張藩に引き継がれましたが、明治4年（西暦1871年）の廃藩置県により、以前の保護がなくなり、鵜飼存続に最大の試練となりました。県令小崎利準の働きかけにより、明治23年（西暦1890年）に長良川筋に三ヶ所の御料場が定められ、宮内省主猟局に奉職がかない、宮内庁式部職として今日、伝統漁法を守り続けております。

鵜飼に使う鵜は、茨城県の伊師浜海岸で捕獲した海鵜です。鵜飼に使用できるまでに少なくとも3年は掛かります。平均寿命は14年～15年。最長26年の記録があります。

鵜と鵜匠とは、手縄により連携を保っています。使い手の二尋半の長さです。鵜の体に直接結える苧縄に首結いと腹掛けとがあります。鵜の長い首を最大に利用し、境をするのが首結いです。この結び方の良否が鵜匠の最も苦心するところです。

赤々と燃える篝火の下で繰り広げられる鵜飼。人鵜一体となって獲物を追う原始漁法。綿々と受け継がれてきた長良川の鵜飼を俳聖松尾芭蕉の名句で締めくくります。

「おもしろて やがて悲しき 鵜舟哉 芭蕉」

ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内

平成31年2月6日（水）

クラブフォーラム「人づくりは心づくり」

（公財）オイスカ中部日本研修センター 所長 小杉裕一郎氏